道徳教育における教材の特性を生かした授業構成に関する研究
－「兵庫版道徳教育副読本」と「私たちの道徳」の２つの副読本の活用を通して－

義務教育研修課　主任指導主事兼課長　馬場　　勝
主任指導主事　　足立　延也

はじめに

平成 26 年 10 月、中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（以下、「答申」という）において、「特別の教科　道徳」の教育課程上への位置付けや検定教科書の導入等が提言された。さらに、「答申」を踏まえ、平成 27 年２月、学校教育法施行規則、小・中学校学習指導要領等の一部改正案が示された。

国によるこの道徳教育改革は、一昨年のいじめ問題の社会問題化に端を発し、いじめ問題の解決のための道徳教育の重要性の提言[1)]が出発点であったが、その後の審議の過程において、学校における道徳教育、とりわけ「道徳の時間」の指導の在り方が大きく問われることとなった[2)]。

道徳の教材をめぐっては、平成 26 年４月、文部科学省が「心のノート」を全面改訂した「私たちの道徳」を発刊し、全国の小・中学校児童生徒に配布した。今後、検定教科書が導入されるが、教科書が供給されるまでの間は、引き続き「私たちの道徳」を活用することになると考えられる。

本県では、平成 23 年３月に「兵庫版道徳教育副読本」（以下、「兵庫版副読本」という）を発刊し、県内公立小・中学校児童生徒に配布している。「兵庫版副読本」は、子供たちの生き方のよりどころとなる心に響く魅力ある教材を目指し、兵庫ゆかりの人物を多く取り上げるなど本県の地域の特性を生かし作成したものである。県教育委員会では「兵庫版副読本」の教師用指導書や実践事例集等[3)]を作成し、道徳の授業づくりの充実に向けた取組を進めてきた。当所においても平成 24 年度に「『兵庫版道徳教育副読本』を活用し「道徳の時間」の特質を生かした授業づくりに関する研究」（以下、「H24 年度研究」という）を行い、その成果を基に研修講座や出前研修等を実施し、道徳の授業づくりの充実に向けた取組を進めてきた[4)]。

では、検定教科書導入後、「兵庫版副読本」の活用はどうなるのか。「答申」では、検定教科書供給後も「教科書のみを使用するのではなく、各地域に根ざした郷土資料など、多様な教材を併せて活用することが重要と考えられる」[5)]と示されていることから、「兵庫版副読本」は「特別の教科　道徳」においても引き続き有効な教材になると言うことができる。

これらの状況から、道徳の教材として個人配布されているこの２種類の副読本の効果的な活用が、平成 27 年度からの本県の道徳教育充実の鍵になると考える。

そこで、本研究では、道徳の教材に焦点を当て、２つの副読本の教材の特性と活用の課題について考察し（第１章）、それぞれの教材の特性を生かした授業での活用に向け、「道徳の時間」での活用（第２章）と、特別活動を例に学校の教育活動全体を通して行う道徳教育での活用（第３章）について、それぞれの教科、領域の特質を明確にした授業構成の在り方を考えていく。

１　２つの副読本の教材の特性と活用の課題

(1)　「兵庫版副読本」と「私たちの道徳」の構成の共通点

「兵庫版副読本」（**図１**）と「私たちの道徳」（**図２**）の構成には共通する部分がある。この２つの副読本は、共に小学校では１・２年、３・４年、５・６年のそれぞれ２学年を通じて、中学校では３年間を通じて活用するように作成されている。各冊子には、読み物資料と併せて、メッセージやコラム等の教材が掲載されている等の構成も共通している。さらに、この２つの副読本は、学校だけの活用にとどまらず、学校と家庭の連携の強化や地域での活用も意図して作成されたものであるという点においても共通している。

図１　「兵庫版道徳教育副読本」

図２　「私たちの道徳」

(2)　２つの副読本の教材の特性

ア　読みの資料の特性

「兵庫版副読本」には、兵庫ゆかりの先人の生き方、自然、伝統と文化等を題材とした読み物資料が掲載されている。これらの読み物資料は題材とした先人の人生すべてを書いた伝記ではない。取り上げた先人が道徳的な問題に直面した人生の一場面だけを切り取り、主人公が道徳的価値を自覚する姿を描いている。また、読み手がその姿から道徳的価値の自覚を追体験できる「しかけ」によって構成されており、「道徳の時間」の主要な教材としての活用を想定したものである。さらに、兵庫ゆかりの先人、自然、伝統、文化等を取り上げることで、子供たちが主人公を身近に感じ、興味・関心の高まりからねらいとする道徳的価値に迫ることも意図されている。

「私たちの道徳」にも、従来の「心のノート」に掲載がなかった読み物資料が掲載されている。その読み物資料の多くは過去に文部省・文部科学省において作成され、今なお全国各地で活用され続けている「良質な」[6]ものである。このことから、文部科学省が「特別の教科　道徳」においても、その主たる教材が読み物資料となることを想定していることがうかがえる。

しかしながら、２つの副読本の読み物資料の数は限られており（**表１**）、また、共に全ての内容項目を網羅している訳ではなく、年間の全ての「道徳の時間」で活用することはできない。

表１「兵庫版道徳教育副読本」と「私たちの道徳」所収読み物資料の作品数

	小学校用			中学校用
	１・２年	３・４年	５・６年	
「兵庫版副読本」	１６編	１６編	１９編	１９編
私たちの道徳	１２編	１２編	１３編	９編

イ　メッセージやコラム等の教材の特性

２つの副読本には、メッセージやコラム等の先人の名言、偉人や著名人の生き方等に関する内容が取り上げられている。

「兵庫版副読本」のメッセージは、兵庫ゆかりの先輩からの自身の成功体験や失敗体験を基にした内容を主として、学級会やホームルーム等での活用を想定したものである。

「私たちの道徳」には、メッセージに加え、コラムや先人等の名言・格言等の教材が掲載されている。

これら２つの副読本のメッセージ、コラム等、読み物資料以外の教材は、短い文章や言葉で道徳的価値がストレートに表現されており、子供たちに道徳的価値を短い時間に焦点化し、伝えることができる教材である。しかし、その特性から、子供たちの道徳的価値の自覚を促しにくく、「道徳の時間」の主たる教材として活用することは難しい。一方、各教科等においては、話合いや意見交換のための素材として活用できるなど、多様に活用することができる教材であると考える。

ウ　書き込み欄の特性

「私たちの道徳」には児童生徒が感じたことや考えたことを書き込めるように作成された書き込み欄がある。

そこには児童生徒の発達段階に合わせた構成上の工夫が施されており、自分の成長を振り返ることができるように学年別に書き込み欄が設けられているものもある。また、小学校低学年用は「家の人から」の欄が多く設けられている。この書き込み欄は「兵庫版副読本」にはなく、「心のノート」の改訂により作成された「私たちの道徳」の特徴であると言える。

図３　２つの副読本の教材の特性

(3)　２つの副読本の活用の課題

読み物資料が「道徳の時間」の主要な教材となることを想定し作成されたものであるのに対し、メッセージやコラム等は「道徳の時間」以外の教育活動で活用することを前提とする教材であるが、どのような指導場面で、どのように活用するのかは具体的に示されていない。そのため「道徳の時間」にコラムや書き込み欄だけを活用した授業が行われるなど、教材の特性を生かす活用が必ずしもできていない状況がうかがえる。

また、「私たちの道徳」には、道徳的実践を促すような具体的な振る舞い方などの「技法」（例えば他者とのコミュニケーションの出発点としての挨拶の仕方）などを身に付けることについて盛り込む趣旨[7]により作成された教材が掲載された。しかし、こういった教材についても、指導場面や活用方法が具体的に示されていないことから、今後、「道徳の時間」での活用と学級活動等での活用が混同されることが懸念される。

そこで、前述の読み物資料、メッセージやコラム等の教材の特性を**図３**にまとめた。これらの特性を踏まえ、**図３**で示した教材の特性と指導に当たる時間の特質を意識して、授業を構成することが重要である。

２　教材の特性を生かした「道徳の時間」の授業づくり

本章では、「道徳の時間」の特質を明らかにしながら、教材の特性を生かした「道徳の時間」における授業構成について考える。

(1)　「道徳の時間」の特質

ア　道徳的実践力と道徳的実践の関係

学習指導要領解説道徳編の指導の基本方針[8)9)]には、「道徳の時間」の特質について、次のように示されている。

（小学校）

道徳の時間は、児童一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを発達の段階に即して深め、内面的資質としての道徳的実践力を主体的に身に付けていく時間である。

（中学校）

道徳の時間は、生徒一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値を発達の段階に即して内面的に自覚し、それに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間である（以下略）。

これらの記述から、「道徳の時間」は、児童生徒の「心」の部分である道徳的実践力の育成を目指し行われるものであると言える。他人から強いられるのではなく、内面の力としての「心」が育つことによって、自ら進んでよくなりたい、変わりたいという自発的・自律的な意志に基づく行為（道徳的行為）ができるように高めていくのである。その行為を支える「心」（**図４**の下側の部分）を育てることが、「道徳の時間」の役割となる。このことを兵庫県教育委員会では学校向けリーフレットの中で、「道徳の時間は、『道徳的実践力』（心）を育成するものであり、『道徳的実践』（言葉・行動）の基盤となるもの」[10] と説明している。

ところが、「答申」では、「道徳教育の目標である『道徳性』の育成と道徳の時間の目標である『道徳的実践力』の育成の関係については、審議の過程でも多くの議論があった」[11] とされ、その関係が分かりにくいとの指摘があり、改善が求められた。また、「答申」では、「道徳教育の要である道徳の時間において、その特質を生かした授業が行われていない場合がある」[12] とも指摘している。

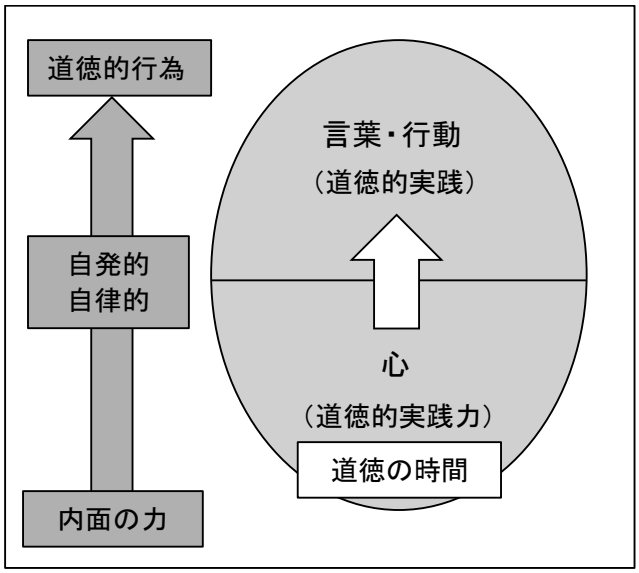


図４　「心」と「言葉・行動」の関係

イ　「道徳の時間」の授業づくりの課題

これらの指摘の背景にある「道徳の時間」の授業づくりの課題として、指導者が、内面的資質としての道徳的実践力（心）と道徳的習慣や道徳的行為と言われる道徳的実践（言葉・行動）の関係を十分に理解できていないことが考えられる。その結果、「道徳の時間」に内面の高まりがないままに、具体的な行動の仕方の指導が行われていたり、読み物資料の登場人物の心情理解に終始する指導が行われていたりと、本来の「道徳の時間」の役割が果たされず、「心」の部分と「言葉・行動」が切り離され、「心」の高まりが感じられない授業になってしまっている状況がある。

(2)　「道徳の時間」の特質と教材の特性を生かした授業構成[13]

ア　教材の特性と内容で「心」と「言葉・行動」をつなぐ授業構成

前述の学校向けリーフレットには、道徳的実践力（心）と道徳的実践（言葉・行動）の関係について、「道徳的実践力と道徳的実践の指導が相互に響き合って、一人一人の道徳性を高めていくものでなければならない」[14] と示している。このことは、**図４**で示す下部の「心」と上部の「言葉・行動」が、相互に響き合う関係になければならないということである。しかし、「道徳の時間」の特質が十分に生かされていない授業では、「心」と「言葉・行動」が乖離したものとなり、相互に響き合えるような関係にないことになる。

そこで、２つの副読本の教材の特性とその内容を生かし、「心」と「言葉・行動」をつなぎ、「道徳の時間」での「心」の高まりが「言葉・行動」に向かう授業構成（モデルとして**図４**に上向きの矢印で示す）を考えていく。

イ　導入の段階で活用する教材

導入は、その時間に用いる資料の内容に興味関心を持たせたり、その時間のねらいとする道徳的価値の自覚に向けた動機付けをしたりする段階である。ここでは、メッセージやコラム等、道徳的価値についてストレートに訴えかける教材を活用することが考えられる。短時間で、子供たちにその時間に考えていく道徳的価値を焦点化することができるからである。

ウ　展開の段階で活用する教材

展開は、ねらいとする道徳的価値を理解し、それを児童生徒が自分のこととして捉え、道徳的価値を自分の生活の中に生かしていこうとする思いを培う段階である。道徳的価値を自分のこととして捉えること、すなわち、道徳的価値の自覚を促す授業構成については、「H24 年度研究」において次のように言及している。

「道徳的価値の自覚を深めさせるためには、子どもに主人公が道徳的な問題にかかわる姿について考えさせ、道徳的価値に気付く場面を中心として授業構成をすること、すなわち『山』のある授業を構想することが重要である。元来、道徳の時間の学習は、教科等の学習で新しい知識を習得することと比べて、常識的に『知っている（分かっている）と思っていること』を自分とのかかわりで考えることを経て、『納得して分かる』ことに特質があり、そのことを踏まえた授業構成の工夫が必要である」。[15]

これらの特質を踏まえると、展開では、主人公が道徳的価値を自覚する姿を描き、読み手がその姿から道徳的価値を追体験できる「しかけ」によって構成された読み物資料の活用が効果的であると言える。

エ　終末の段階で活用する教材

終末は、道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、温めたりする段階である。ここでは、メッセージ教材や書き込み欄の活用が有効であると考える。ねらいとする道徳的価値を自分のこととして捉えることができ、今の自分の在り様やこれからの自分の生き方を考えるきっかけを作るなどの道徳的行為への身構えへとつなげていくことができると考える。

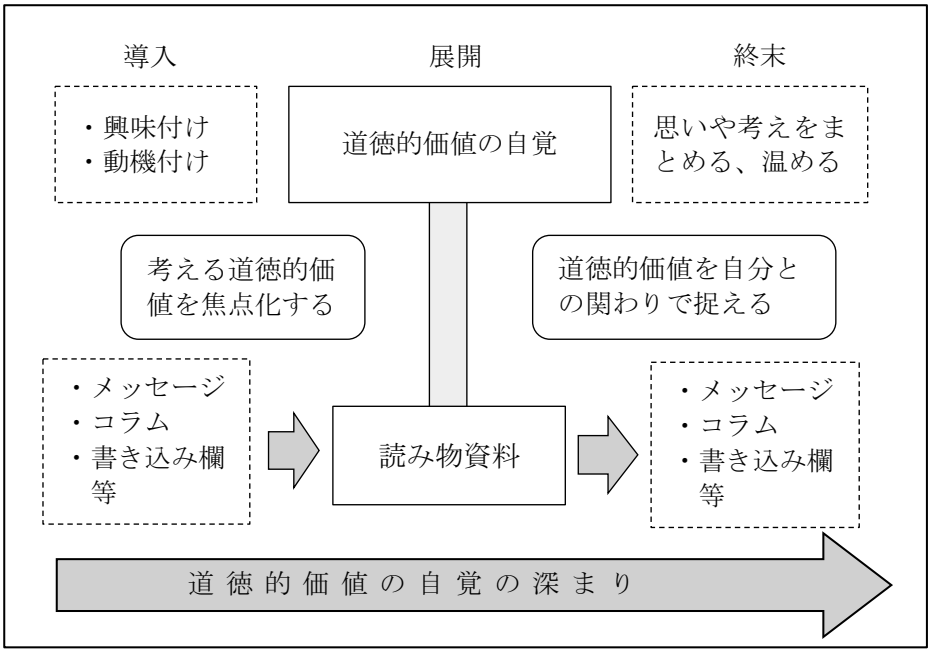


図５　２つの副読本の特性を生かした授業構成のイメージ

これらの導入から終末に至る教材の特性を生かした一連の指導により、①自分との関わりで考え、②納得して分かる、「道徳の時間」の特質を生かした指導ができる（**図５**）。

⑶　２つの副読本の特性を生かした「道徳の時間」の授業モデル

中学校の内容項目１－⑷で扱う授業（主題「真実を求めて」）の指導において、中学校「兵庫版副読本」（心かがやく）掲載の読み物資料「留さんのボギー　宮本留吉」を主要な教材とし、導入及び終末において、「私たちの道徳」掲載のコラム及び書き込み欄を活用する「道徳の時間」の授業モデルを以下に示す。

ア　ねらいとする道徳的価値について

中学校学習指導要領解説道徳編では、内容項目１－⑷について、「真理とは、だれも否定することのできない普遍的な妥当性のある物事の筋道、道理を指し、真実とはうそや偽りのないことである。」[16] と説明している。また、「理想は、この真理や真実を探求した結果、自分の人生をかけて実現すべき価値を見いだしたときに強く意識されるものである。よりよく生きる力は、こうした積極的な生き方を追い求める中で培われるものである。」[17] とも説明している。中学生の時期は、将来への夢や期待を強く持ち始める時期であるが、夢や理想を求めることは、実感の伴わない空想的な現実離れした考え方になりかねないものである。真理の探求という中学生にとって実感しにくい道徳的価値を自分のこととして、自分に引き寄せて考えられるようにするために、導入及び終末においてコラム及び書き込み欄を活用する。

イ　導入のポイント　―道徳的価値を短時間で焦点化する―

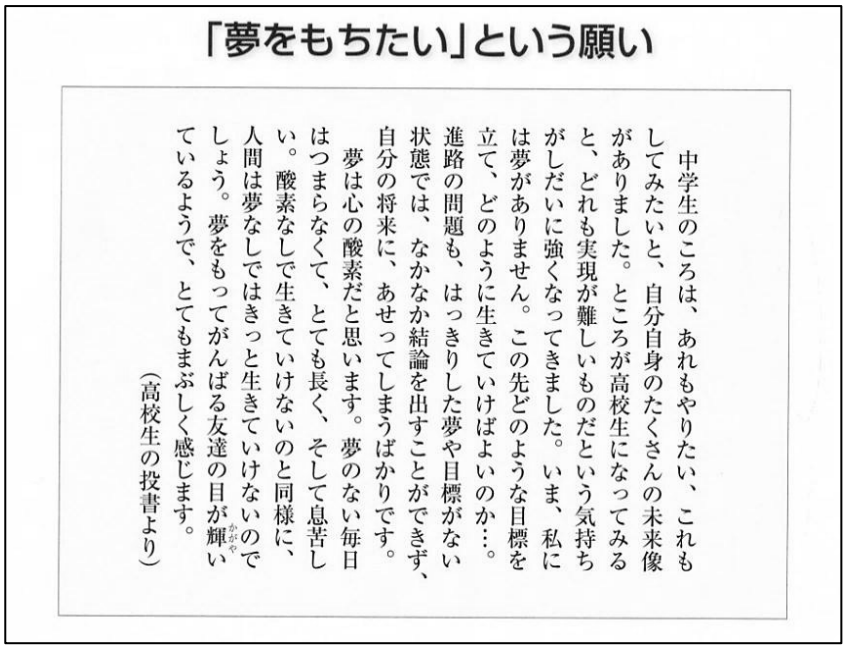
読み物資料の記述内容には多くの道徳的価値が含まれている。そのため、この時間に生徒に考えさせる道徳的価値を明確にするために、導入では「私たちの道徳」のコラム「『夢をもちたい』という願い」という高校生

の手記（**図６**）を活用する[18]。同世代の高校生が夢を持てないことに悩む思いに共感させ、「自分に夢と言えるものがあるのか。」「夢があるかないかによって人の生き方は変わるのだろうか。」と自らに問い掛けさせながら、考えていく道徳的価値を短い時間で焦点化していく。

ウ　展開のポイント

中心となる読み物資料には、「兵庫版副読本」の「留さんのボギー 宮本留吉」[19]を活用する。兵庫ゆかりのプロゴルファー「留さん」が誠実な生き方をゴルフの中で実現しようとする行動を通して、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓こうとする道徳的価値の自覚を図っていく。

ここで活用する読み物資料は、主人公が道徳的に変化する資料ではなく、「信念」が主人公の生き方を支える資料である。つまり、主人公の変化を描いたものでなく、主人公の生き方を貫いた「信念」について考えさせる教材であり、主人公の生きる姿から、それを支えた「道徳的価値及びそれに基づいた人間の生き方」を感じ取らせる授業展開を意識して作成されている。この授業では、19 頁に示すように、主人公の生き方を貫く信念を支えている道徳的価値を全ての場面で考えさせるのではなく、①道徳的価値と関わって主人公の「心」が最も大きく動いた場面と、②子供が主人公に自己を投影できる場面を中心に授業構成を行う。


「夢をもちたい」という願い

中学生のころは、あれもやりたい、これもしてみたいと、自分自身のたくさんの未来像がありました。ところが高校生になってみると、どれも実現が難しいものだという気持ちがしだいに強くなってきました。いま、私には夢がありません。この先どのような目標を立て、どのように生きていけばよいのか…。進路の問題も、はっきりした夢や目標がない状態では、なかなか結論を出すことができず、自分の将来に、あせってしまうばかりです。

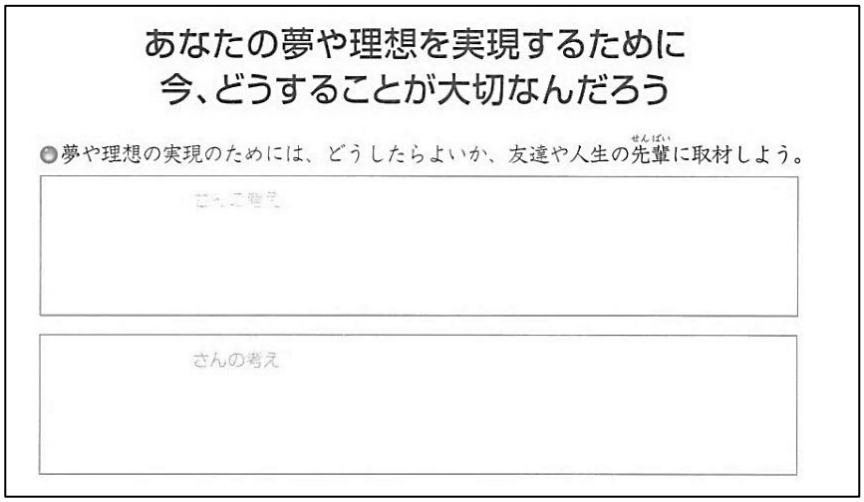
夢は心の酸素だと思います。夢のない毎日はつまらなくて、とても長く、そして息苦しい。酸素なしで生きていけないのと同様に、人間は夢なしではきっと生きていけないのでしょう。夢をもってがんばる友達の目が輝いているようで、とてもまぶしく感じます。

（高校生の投書より）

図６「私たちの道徳」のコラム

エ　終末のポイント　―これからの自分の生き方を考える―

終末では、「私たちの道徳」の書き込み欄[20]（**図７**）を活用し、これからの自分の生き方について思いを温めるようにする。教材にある「あなたの夢や理想を実現するために今、どうすることが大切なんだろう」という問い掛けから、友達や人生の先輩への聞き取り活動へとつなげていく。その過程で、道徳的価値との関係における現在の自分の在り様を見つめ、これからの生き方について考えていく。


あなたの夢や理想を実現するために
今、どうすることが大切なんだろう

◎夢や理想の実現のためには、どうしたらよいか、友達や人生の先輩に取材しよう。

さんの考え

さんの考え

図７「私たちの道徳」の書き込みページ

オ　「道徳の時間」の展開例

(ｱ)　主題名　　真実を求めて　１－（４）

(ｲ)　ねらい　　誠実な生き方をゴルフの中で実現しようとする留さんの行動を通して、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓こうとする道徳的心情を育てる。

(ｳ) 本時の展開

	学　習　活　動	
導入	【ねらいとする道徳的価値について自分自身を振り返る】 ○「『夢をもちたい』という願い」の範読を聞きながら黙読する。 「あなたには夢がありますか？」 「あなたの夢は何ですか？」 「夢があるかないかでは、人の生き方が変わるでしょうか？」 ※教師の問い掛けを受け止め、自分自身を振り返る。	導入では、「私たちの道徳」から、18 頁**図６**の夢が持てない高校生のコラムを活用する。 同世代の高校生が、夢が持てないことに悩む姿に共感しながら、自分自身の今の状況を振り返らせ、読み物資料で考えていく道徳的価値を焦点化していく。
展開	【読み物資料をもとに道徳的価値の自覚を図る】 ○範読を聞きながら黙読する。 ○舌打ちした主人公の気持ちを考える。 「ついてないな。」と舌打ちした留さんはどんな気持ちだったのでしょう。 ・あっ、大事なところで一打増えてしまった。 ・これでこのホールは、パーも難しくなったなあ。 ・こんな大事な場面でどうしてこんな目に遭うのだろう。 ○ボギーであることを告げた時の主人公の気持ちを考える。 「いや、ボギーや。六打だ。…」と岡橋さんに告げた時、留さんはどんなことを考えていたのでしょう。 ・「そうや、パーや。」と言いたいところだが、ボギーなのだ。 ・誰も見ていないとはいえ、ルールはルールだ。 ・おれはフェアに戦うから、正直に言うぞ。 ○セレモニーの舞台に向かう主人公の気持ちを考える。 セレモニーの舞台に向かいながら、留さんはどんなことを思っていたのでしょう。 ・13 番ホールで正直に申告して本当によかった。 ・胸を張れるプレーができてよかった。 ・おれはプロゴルファーである前に人間なのだ。	この時間の中心となる教材は、「留さんのボギー」(兵庫版副読本) を活用する。 場面の状況やゴルフの用語を説明しながら、ストーリーを時系列でつかませていく。 展開では、主人公の「信念」を貫く「真実（うそや偽りのないこと）を求める生き方」について考えていく。 ①道徳的価値と関わって主人公の「心」が最も大きく動いた場面、②子供が主人公に自己を投影できる場面を中心に、３つの場面で主人公の「心」を考えていく。
終末	【これからの自分について考える】 ○夢や理想の実現に向け、どうすることが大切なのかを考える。 あなたも自分の夢や理想について考えてみましょう。夢や理想の実現を実現するために、どうすることが大切なのかを友達や人生の先輩に取材しましょう。 ・部活動の先輩に聞いてみたい。 ・トライやる・ウイークでお世話になった事業所をもう一度訪ねてみたい。	終末では、「私たちの道徳」掲載の 18 頁**図７**の書き込み欄を活用し、友達や人生の先輩への取材を行う活動へとつなげ、道徳的価値に関わる今の自分の在り様を見つめさせ、これからの生き方について考えていく。

３　学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の指導

(1)道徳的実践の場としての特別活動の指導

本章では、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の指導について、目標が道徳教育と深い結び付きがある特別活動[21]を取り上げ、その指導の在り方を考える。

ア　特別活動と道徳教育の関係

小学校の特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」[22]である。この目標で示された「自己の生き方について考えを深め」という表現は、「道徳の時間」の目標にも見ることができる。この共通点について、国立教育政策研究所作成の指導資料では、「特別活動においては、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする集団活動を通して、自己の生き方に対する望ましい認識を育て、集団の中で自己を生かす能力を養います。このことは特別活動と道徳教育が密接に関連している部分であり、道徳的実践の指導の充実を図る上で特に大切な部分であると言えます」[23]とまとめられている。

また、特別活動と「道徳の時間」での指導の関わりについて、小学校学習指導要領解説特別活動編（以下、「特活解説」という）では、「道徳の時間での指導が特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ、具体的な実践や体験などが行われることによって、道徳的実践力と道徳的実践の有機的な関連を図る指導が効果的に行われることにもなる。」[24]と示されている。つまり、「道徳の時間」で育成した「心」の部分を意識し、特別活動の指導を行うことで、「心」の高まりに支えられた道徳的習慣や道徳的行為へとつなげていくことが期待されているのである。

イ　特別活動の特質を生かした道徳教育

「特活解説」では、「特別活動と道徳の時間との安易な関連付けは、逆に双方の学習効果を低めることになりかねない」[25]との懸念も示されており、特別活動と「道徳の時間」の両方の特質を理解した上で、授業を構想することが求められている。集団による実践的な活動を特質とする特別活動[26]において、自分たちの力による諸問題の解決に向けた具体的な実践を通して道徳的実践力(心)を育むことが、子供たちの道徳的実践(言葉・行動)を充実させることにつながると考える。

ウ　特別活動の内容と道徳の内容の関連

特別活動の内容と道徳の内容が関連している例として、学級活動を取り上げる。学級活動では、児童生徒が自分たちのよりよい生活を築くために、学級や学校の生活から諸問題を見出し、自主的に取り上げ、協力して解決するという自発的、自治的な活動を行う過程で、「望ましい人間関係の形成」が図られていくことになる。このことは、道徳の「主として他の人とのかかわりに関すること」や「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の内容と関連が深い。この関連を意識することが、学級活動で育みたい道徳的価値を明確にした意図的・計画的な道徳的実践の指導につながる（**図８**）。この指導は、「言葉･行動」の指導から「心」の高まりへのアプローチが主となる。

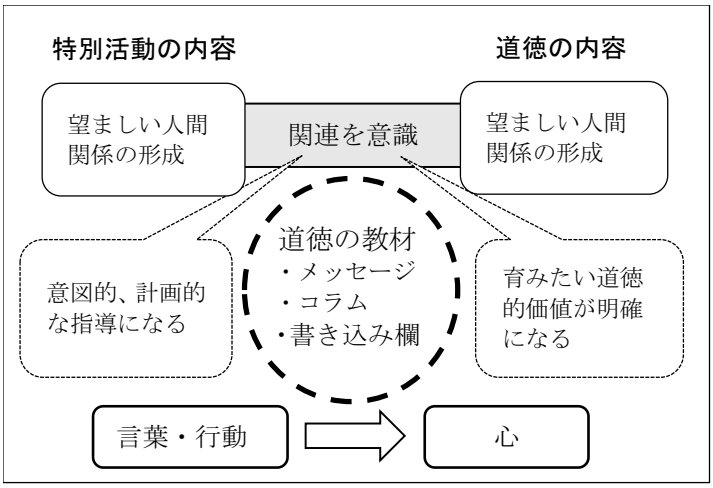


図８　「言葉・行動」から「心」を育む道徳的実践のイメージ

エ　教材の特性と内容で「言葉・行動」と「心」をつなぐ

特別活動の内容と道徳の内容をつなぎ、子供たちに育てたい道徳的価値を明確にした意図的・計画的な指導にするために、特別活動の特質である集団による実践的な活動を基にしながら、「言葉・行動」から「心」を

育てることを目指し、２つの副読本の教材の特性と内容を生かした授業構成を提案する。

⑵　副読本の教材の特性を生かした小学校学級活動の授業モデル

小学校中学年の学級活動（共通事項（２）－ウ「望ましい人間関係の形成」）の指導において、「私たちの道徳」３・４年掲載のイラスト付き教材「みんなでつくる楽しい学級」を活用した話合い活動を行い、事後の活動で「兵庫版副読本」３・４年掲載のメッセージ教材「人に欠かせないこと」を活用する授業案を以下に示す。

ア　道徳の内容との関連

いじめや不登校、暴力行為といった子供たちの問題を考える時、人間関係の希薄さに伴う対人関係の未熟さが見えてくる。小学校中学年の学級活動で求められる望ましい人間関係は、「協力し合おうとする人間関係」[27] であり、「特活解説」の中に道徳の内容との関わりがまとめられている（**表２**）。[28]

表２　小学校中学年　学級活動と道徳の内容の関連

	学級活動の内容	道徳の内容項目（特に関係の深い）
中学年	協力し合って楽しい学級生活をつくる	２　主として他の人とのかかわりに関すること 。 ⑶　友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 ４　主として集団や社会とのかかわりに関すること。 ⑷　先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。

表２に示す通り、道徳の内容と関わりの深い学級活動の指導において、道徳の教材を活用することで、育みたい道徳的価値が明確になり、特別活動の特質である集団による実践的な活動を通して「言葉・行動」から「心」を育てる授業構成ができる。

イ　「私たちの道徳」のイラスト付き教材の活用

話合い活動では、**図９**の「私たちの道徳」のイラスト付き教材[29] を活用する。これは具体的な振る舞い方の技法を身に付けることを意図して掲載された教材である。そこには、「一人でさびしそうにしている人がいます。」や「係の仕事をしない人や当番をわすれている人がいます。」等の３つの具体的な生活場面がイラスト付きで示され、「どのようにして解決すればよいと思いますか。」という問い掛けがある。この教材の特性から、学級活動での望ましい人間関係の形成の指導として、言葉掛けを題材とした社会的スキルを身に付ける活動に生かすことが有効である。

図９「私たちの道徳」のイラスト教材

ウ　題材　「みんなが気持ちよくすごすための言葉かけ」

学級活動の内容（２）「日常の生活や学習への適応及び健康安全」では、教師の意図的・計画的な指導のもと、話合い活動を行うことになる。この授業の題材「みんなが気持ちよくすごすための言葉を考えよう」は、自分や学級全体の友達への関わり方を振り返り、振る舞い方や言動が人間関係づくりに与える影響について考えるものである。授業では、みんなが協力できる学級づくりに向けた話合い活動を行い、友達への関わり方について、実践する目標を自己決定する。その指導過程は**図 10** に示す通りである。

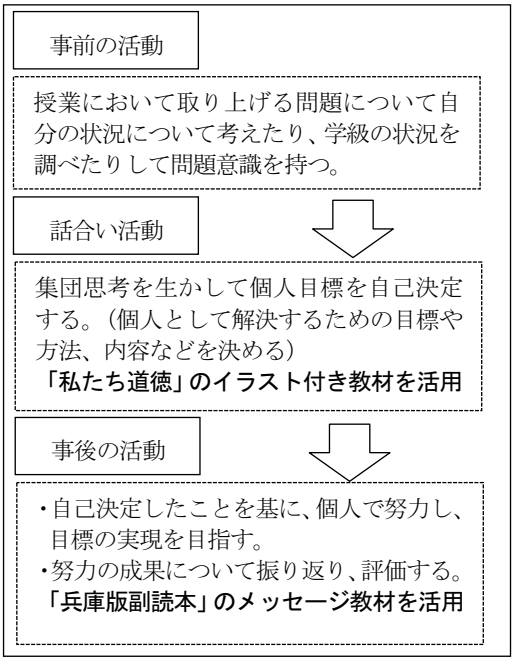


図 10　学級活動の指導過程

エ　事前の活動のポイント

朝の会等の時間を活用し、友達との関わり方についてのアンケートを実施し、「これまで友達への言葉掛けは気にしてなかった」等、友達への言葉掛けに問題意識を持た

せるようにする。

オ　学級活動の展開例

(ｱ)　題材　　「気持ちよくすごすための言葉かけを考えよう」

(ｲ)　ねらい　友達の表情から気持ちを察して行う言葉掛けに関心を持ち、意欲的に相手の気持ちを想像して言葉掛けをしたり、違いを認め合う関わり方をしたりするなど、望ましい人間関係を築いていけるようにする。

(ｳ)　本時の展開

	学　習　活　動	
導入	【学習のねらいをつかむ】 ○事前に実施した学級生活についてのアンケートの結果を示し、楽しい学級にするための友達への関わり方について課題を持つ。 学級のみんなと仲よく協力するための友達への関わり方を考えよう。	アンケートの結果をグラフで示し、自分やクラス全体の友達への関わり方を振り返らせ、友達との関わり方に問題意識を持たせる。
展開	【相手を大切にする関わり方について考える】 ○学級の生活場面を想定し、どのような関わり方が、相手を大切にする関わり方になるのかを話し合う。 〈生活場面１〉 〈仲間に入れなくて困っている友達がいるとき〉 「一人でさびしそうにしている人がいます。あなたならどんな声をかけますか。」 「どうしたの？」「何かあった？」「一緒に遊ぼう」 ・相手の気持ちが分かって声を掛ける。 ・相手の表情や状況に応じた言葉掛けをする。 〈生活場面２〉 〈係活動がうまくいかないとき〉 「係の仕事をしない人や当番を忘れる人がいます。あなたならどんな声をかけますか。」 〈生活場面３〉 〈学級のきまりが守られないとき〉 「学級のみんなで決めたきまりが守られなくなっています。あなたなら何と声をかけますか。」 ・言葉だけでなく、表情や態度から嫌な気分になることがある。 ・厳しい口調や表情では気持ちが伝わらない。 ・気持ちを察した言葉掛けができるようになりたい。 ・自分も友達も心地よい言葉掛けができるといい。 ・友達の表情や状況を見て、言葉掛けを考えられるようになりたい。	「私たちの道徳」掲載の 21 頁**図９**のイラスト付き教材を活用し、具体的な生活場面での解決方法を話し合い、言葉や表情、振る舞い方の違いが友達を勇気付けたり、傷付けたりすることがあることに気付かせていく。 自分が考えた関わり方をロールプレイしたり、友達と意見を交流したりする中で、相手を大切にした関わり方のよさを実感させていく。 集団での交流やロールプレイで感じたことを基に、これから、学級のみんなが仲良く、協力し合えるようにするために、一人一人が実行できる友達への言葉掛けについて話し合う。 話合い活動を振り返り、これから友達への言葉掛けで一定期間実行することを自己決定する。
まとめ	【友達との関わり方の目標を自己決定する】 ○話合いを振り返り、協力し合える学級にするために、自分にできる友達との関わり方を考える。 ○自己決定した友達との関わり方を実践するための記録カードを作成し、取組への意欲を持つ。	記録カードには、教師のコメントを書くなど、実践を持続させる意欲付けをする。

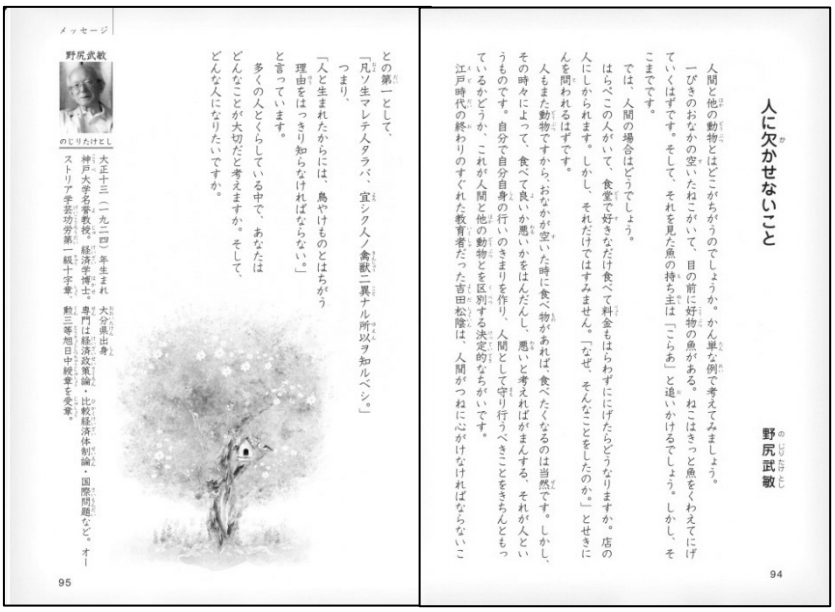
カ　話合い活動のポイント

話合い活動では、「私たちの道徳」に掲載されている「協力し合って楽しい学校、学級を」のイラスト付き教材（**図９**）を活用し、そこに設定された３つの生活場面について解決方法を話し合っていく。イラストで示された生活場面について、小集団で話し合ったり、教師と一緒にロールプレイをしたりするなどの方法を取り入れ、相手にとって気持ちのよい言葉掛けや態度について考える過程で「相手の気持ちを察した言葉掛けをすることの大事さ」に気付かせていく。

まとめでは、相手を大切にした関わり方をしたときの気持ちを出し合い、友達との関わり方について実践する目標を自己決定し、一定期間取り組むようにする。

キ　事後の活動のポイント

事後の活動では、「兵庫版副読本」掲載のメッセージ教材[30]「人に欠かせないこと」（**図 11**）を活用する。この教材は「多くの人とくらしている中で、あなたはどんなことが大切だと考えますか。そして、どんな人になりたいですか。」とストレートに語り掛けてくるもので、実践活動を振り返る指導での活用に適している。また、メッセージ教材の特性から、帰りの会等、短い時間での活用が可能である。


人に欠かせないこと

野尻武敏

人間と他の動物とはどうがちがうのでしょうか。かん単な例で考えてみましょう。

一びきのおなかの空いたねこがいて、目の前に好物の魚がある。ねこはさっと魚をくわえてにげていくはずです。そして、それを見た魚の持ち主は「こらあ」と追いかけるでしょう。しかし、そこまでです。

では、人間の場合はどうでしょう。

はらぺこの人がいて、食堂で好きなだけ食べて料金もはらわずににげたらどうなりますか。店の人にしかられます。しかし、それだけではすみません。「なぜ、そんなことをしたのか。」とせきにんを問われるはずです。

人もまた動物ですから、おなかが空いた時に食べ物があれば食べたくなるのは当然です。しかし、その時々によって、食べて良いか悪いかをはんだんし、悪いと考えればがまんする、それが人というものです。自分で自分身の行いのきまりを作り、人間として守り行うべきことをきちんともっているかどうか、これが人間と他の動物とを区別する決定的なちがいです。

江戸時代の終わりのすぐれた教育者だった吉田松陰は、人間がつねに心がけなければならないことの第一として、

「凡ソ生マレテ人タラバ、宜シク人ノ禽獣ニ異ナル所以ヲ知ルベシ。」

つまり、

「人と生まれたからには、鳥やけものとはちがう理由をはっきり知らなければならない。」

と言っています。

多くの人とくらしている中で、あなたはどんなことが大切だと考えますか。そして、どんな人になりたいですか。

94

メッセージ

野尻武敏

のじりたけとし

大正十三（一九二四）年生まれ　大分県出身。神戸大学名誉教授。経済学博士。専門は経済政策論・比較経済体制論・国際問題など。オーストリア学芸功労第一級十字章、勲三等旭日中綬章を受章。

95

図 11　「兵庫版道徳教育副読本」のメッセージ教材

この教材を事後の活動で活用し、自己決定に基づき一定期間取り組んだ実践活動を振り返り、「協力し合う人間関係づくりの大切さ」を意識させていく。

おわりに

本研究では、道徳の教材に焦点を当て、「兵庫版道徳教育副読本」及び「私たちの道徳」の教材の特性を生かした授業構成の在り方を考察した。

「道徳の時間」の活用では、読み物資料とメッセージやコラム等の教材を組み合わせ活用することで、「心」と「言葉・行動」をつなぎ、「心」の育ちを「言葉・行動」に高めていくアプローチを意識した授業構成を示した。

一方、特別活動を例に考えた道徳教育の指導においても、道徳の教材の特性を生かし活用することで、各教科等の内容と道徳の内容をつなぎ、「言葉・行動」から「心」を育む「道徳の時間」とは逆のアプローチを意識した授業構成を提案した。

その際、教材の特性を生かし活用する授業モデルを示すため、「道徳の時間」と学校の教育活動全体を通して行う道徳教育とを分けて、授業構成の具体を考えてきた。その結果、教材の特性とそれぞれの時間の特質を踏まえた指導の在り方が明確となった。しかし、実際には「心」（道徳的実践力）と「言葉・行動」（道徳的実践）の間に明確な境界線が存在する訳ではない。つまりは、それぞれの場面において、双方向のアプローチを意識した指導を行うことが重要である。

道徳教育の動向をめぐる新聞報道等において、「『読む道徳』から『考える道徳』への転換」という見出しの記事を目にする。「考える道徳」については、「考える」対象（内容）が問われるべきであり、道徳性を育てるという道徳教育の目標から、日常生活の問題処理だけではなく、道徳上の問題（人間としての生き方）を「考える」ことを重視すべきである。その意味から、本研究で考察した「心」と「言葉・行動」の関係を意識し、教材の特性とそれ

ぞれの時間の特質を生かした指導の在り方は、今後の道徳教育を考える一つの手掛かりになると考える。今後、「特別の教科　道徳」においても、その時間が人間の生き方を考える時間となることに変わりはないものと考える。「特別の教科　道徳」の特質を見極め、道徳の教材の特性と内容を生かした効果的な授業構成を行うことが引き続き期待され、望まれるところである。本研究の成果がその一助となれば幸いである。

注)

１）教育再生実行会議「いじめの問題等への対応について（第一次提言）」，2013

２）道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）」，2013，ｐ10

３）兵庫県教育委員会，兵庫県道徳教育Ｗｅｂページに掲載
(http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/doutoku/doutokuweb.htm)

４）馬場　勝、大西ゆかり、若松明子「『兵庫版道徳教育副読本』を活用し道徳の時間の特質を生かした授業づくりに関する研究」，兵庫県立教育研修所編『研究紀要第 123 集』，2013

５）中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）」，2014，ｐ15

６）道徳教育の充実に関する懇談会，「心のノート」全面改訂の基本的な考え方，2013

７）同上

８）文部科学省「小学校学習指導要領解説　道徳編」，2008，ｐ79

９）文部科学省「中学校学習指導要領解説　道徳編」，2008，ｐ82

10）兵庫県教育委員会『「生命を尊重する心」と「規範意識」の育成』，2010，ｐ７

11）前掲５），ｐ９

12）前掲５），ｐ２

13）「道徳の時間」の各段階については、前掲 10），ｐ６を基にしている

14）前掲 10），ｐ７

15）前掲４），ｐ10

16）前掲９），ｐ43

17）前掲９），ｐ43

18）文部科学省「私たちの道徳　中学校」，2014，ｐ33

19）兵庫県教育委員会「兵庫県道徳教育副読本　中学校心かがやく」2014，ｐ４～７

20）前掲 18）ｐ34

21）文部科学省「小学校学習指導要領解説　特別活動編」，2008，ｐ25

22）前掲 21），ｐ８

23）文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター「楽しく豊かな学級・学校をつくる特別活動（小学校編）（教員用指導資料）」，2014　ｐ24

24）前掲 21），ｐ26

25）前掲 21），ｐ27

26）前掲 21），ｐ21

27）前掲 21），ｐ32

28）前掲 21），ｐ57

29）文部科学省「私たちの道徳　小学校３・４年」，2014，ｐ151

30）兵庫県教育委員会「兵庫県道徳教育副読本　小学校３・４年心きらめく」2014，ｐ94～95